
安藤正人教授 業績一覧

List of Prof. Masahito Ando's Research Achievements

* 本業績一覧には、刊行された著書、編書、論文、講演録等を、発表年ごとに収録した。

できる限り網羅的に収録したが、新聞・雑誌等への短文寄稿や事典類の項目執筆などについて、一部掲載しなかったものがある。

- 1976
- ・『大月市史史料編・近世』(共編、山梨県大月市、1976年)
- 1977
- ・書評「藤沢晋著『近世封建交通史の構造的な研究』(武書店)」(『史学雑誌』86(10)、1977年10月)
- 1978
- ・「甲州道中における商品流通の展開と運輸機構——甲州郡内地方を中心に」(『史料館研究紀要』10号、1978年3月)
 - ・「近世後期甲州幕領の群中惣代史料」(『史料館研究紀要』10号、1978年3月)
- 1980
- ・「甲州天保一揆の展開と背景——米穀市場の問題を中心に」(百姓一揆研究会編『天保期の人民闘争と社会変革・上』、1980年、校倉書房)
- 1981
- ・「近世甲府の都市構造と役負担」(『史料館研究紀要』13号、1981年10月)
 - ・「幕藩制国家初期の『公儀御料』」(『歴史学研究』別冊特集、1981年11月)
 - ・書評「森安彦著『幕藩制国家の基礎構造』(吉川弘文館)」(『史学雑誌』90(12)、1981年12月)
- 1984
- ・「天保一揆前後の甲府都市民」(尾藤正英先生還暦記念会編『日本近世史論叢、下巻』、吉川弘文館、1984年)
 - ・「文書目録の編成に関する一、二の問題——『越後佐藤家文書目録』を作成して」(『史料館報』第40号、1984年3月)
- 1985
- ・『越後国頸城郡岩手村佐藤家文書目録(その一)』(国文学研究資料館史料館、1985年)
 - ・「近世初期の街道と宿駅」(永原慶二・山口啓二編『講座・日本技術の社会史 第8巻 交通・運輸編』、日本評論社、1985年)
 - ・「史料整理と検索手段作成の理論と技法——欧米文書館の経験と現状に学ぶ」(『史料館研究紀要』17号、1985年9月)
 - ・「近世・近代地方文書研究と整理論の課題——『文書館学』の立場から」(『日本史研究』280号、1985年12月)
 - ・「文書館学とアーキビスト養成への取り組みを——『第10回文書館国際会議』に出席して」(『歴史学研究』546号、1985年10月)
 - ・書評「地方史研究協議会編『新版・地方史研究必携』(岩波書店)」(『史学雑誌』94(10)、1985年10月)
 - ・「文書館とアーキビスト」(『図書館雑誌』79(10)、1985年10月)
- 1986
- ・『史料保存と文書館学』(大藤修氏と共著、吉川弘文館、1986年)
 - ・「文書記録の保存・利用と文書館」(『大和史研究』12号、1986年3月)
- 1987
- ・“FAIRINGU SHISUTEMU”, *Records Management Society Bulletin*, UK, 1987.
 - ・「文書館法をめぐって——日本の史料保存利用問題に関する国際文書館評議会の勧告について」(『歴史学研究』568号、1987年6月)
 - ・「ロンドン大学のアーキビスト養成課程」(『アーキビスト』No.13、1987年6月)
- 1988
- ・「史料の整理と検索手段の作成」(国文学研究資料館史料館編『史料の整理と管理』、岩波書店、1988年)
-

- 「文書館・公文書館をめぐる外国の法令——ユネスコ研究報告の紹介を中心に」(岩上二郎編『公文書館への道』、共同編集室、1988年)
- “Japanese Archives at the Dawn of a New Age”, *INFORMATION DEVELOPMENT*, vol.4, No.1, 1988.
- 「21世紀の文書館——公文書館法の成立によせて」(『新潟史学』21号、1988年10月)
- 書評「『和泉国日根郡熊取谷中家文書目録』(大阪府泉南郡熊取町教育委員会)」(『史学雑誌』97(3)、1988年3月)
- 1989 • 『越後国頸城郡岩手村佐藤家文書目録(その二)』(国文学研究資料館史料館、1989年)
- 「記録遺産の保存と国際協力」(『大阪市公文書館研究紀要』創刊号、1989年3月)
- 「英国文書館専門家の来日と『記録史料の保存利用に関する日英セミナー』」(『アーキビスト』No.16、1989年4月)
- 1990 • 「アーキビストの教育と養成をめぐる新しい波——ICA国際シンポジウムの諸報告」(『史料館研究紀要』22号、1990年3月)
- 「文書館問題と史料整理の方法について」(『歴史科学と教育』9号、1990年5月)
- 「現代における文書館の役割」(『和歌山地方史研究』19号、1990年9月)
- 「明日への遺産——公文書保存の重要性を考える」(『大阪あーかいぶず』特集号No.2、1990年11月)
- 「行政情報の総合的管理体制を——情報公開とアーカイブズ」(『新聞研究』473号、1990年12月)
- 「“社会の記憶装置”の現実——遅れている資料保存と専門家の育成」(『赤旗』1990年12月28日)
- 1991 • 『越後国頸城郡岩手村佐藤家文書目録(その三)』(国文学研究資料館史料館、1991年)
- 「文書館についての四章」(尾崎市立地域研究史料館『地域史研究』20巻2号、1991年2月)
- 「記録史料目録論」(『歴史評論』497号、1991年9月)
- “Archival Training in Japan”, *JANUS* 1991.2, International Council on Archives, 1991.2.
- 「社会の記憶装置6 国立史料館」(『赤旗』1991年4月6日)
- 1992 • 「中国におけるアーキビストの養成と教育——ICA国際シンポジウムの報告を中心に」(『史料館研究紀要』24号、1992年3月)
- 「アーキビストはプロフェッションたりうるか」(『レコード・マネジメント』12号、1992年3月)
- 「記録史料の保存と整理」(南予古文書の会『記録史料を守るために』、1992年6月)
- “Japan Society of Archives Institutions”, *Archives and Manuscripts*, 20(1), Australian Society of Archivists Incorporated, 1992.
- 1993 • 「育てアーキビスト——記録遺産を守り活かす専門職」(大田区史編纂室『史誌』37号、1993年1月)
- 「記録史料調査の理論と方法——現状と課題」(『牛久市小坂斎藤家文書概要調査報告書』、1993年3月)
- 「欧米における裁判所記録の保存制度」(『早稲田法学』第69巻第2号、1993年12月)
- 「アーキビストの教育と養成——世界と日本」(『情報知識学会ニューズレター』18号、1993年2月)
- 「アーカイブズと歴史学——『日本史大事典』に寄せて」(『月刊百科』309号、1993年7月)
- 「歴史学研究と史料保存」(『地方史研究』244号、1993年8月)
- 「記録史料をどう活かすか——アメリカの文書館における教育普及活動を見て」(神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会『会報』5号、1993年10月)
- 1994 • 『越後国頸城郡岩手村佐藤家文書目録(その四)』(国文学研究資料館史料館、1994年)
- 1995 • 「越後国頸城郡岩手村佐藤家文書の構造」(渡辺尚志編『近世米作単作地帯の農村社会——越後国岩手村佐藤

家文書の研究』、岩田書院、1995年)

- 「記録史料学とアーキビスト」(『岩波講座日本通史 別巻 史料論』、岩波書店、1995年)
- 「二一世紀に活かす行政の足跡——アーカイブズの話」(『八潮市史研究』16号、1995年2月)
- 「北欧の文書館と文書館専門職」(水野保氏ほか4人と共著、『史料館研究紀要』26号、1995年3月1)
- 「記録遺産の保存と地域文化の継承発展——田中家史料調査の意義」(田中家史料保存委員会『愛媛県宇和島市三浦田中家文書目録』、1995年8月)
- 『本渡市古文書史料集・天領天草大庄屋木山家文書・御用触写帳 第一巻』(共編、熊本県本渡市教育委員会、1995年)
- 「木山家文書と『御用触写帳』『萬覚帳』」(『本渡市古文書史料集天領天草大1庄屋木山家文書・御用触写帳第一巻』、1995年3月)
- 1996
- 『記録史料の管理と文書館』(青山英幸氏と共編著、北海道大学図書刊行会、1996年)
- 「民間所在史料の保存・管理に関する研究——山梨県大月市星野家文書を素材にして」(青木睦氏と共著、『史料館研究紀要』27号、1996年3月)
- 「マイケル・クック北海道セミナー」(『記録と史料』7号、1996年10月)
- 「アーキビスト養成の問題」(全国歴史資料保存利用機関連絡協議会編『日本の文書館運動——全史料協の二十年』、岩田書院、1996年)
- 「日本の文書館と記録史料の管理・利用の現状」(『近現代東北アジア地域史研究会ニューズレター』8号、1996年12月)
- 1997
- 『本渡市古文書史料集・天領天草大庄屋木山家文書・御用触写帳 第二巻』(共編、熊本県本渡市教育委員会、1997年)
- 「戦争と史料——マレーシアの文書館を訪ねて」(『記録と史料』第8号、1997年10月)
- 「記録史料の記述とその標準化——国際的動向」(国文学研究資料館史料館「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」研究レポート』No.1、1997年3月)
- 『平成7～平成8年度科学研究費補助金(国際学術研究)「在英日本史料の所在と現状に関する調査」研究成果報告書(研究代表者・森安彦)』(分担執筆、国文学研究資料館史料館、1997年3月)
- 1998
- 『草の根文書館の思想』(岩田書院、1998年5月)
- 『記録史料学と現代——アーカイブズの科学をめざして』(吉川弘文館、1998年6月)
- 『本渡市古文書史料集・天領天草大庄屋木山家文書・御用触写帳 第三巻』(共編、熊本県本渡市教育委員会、1998年)
- 「アーキビスト養成大学院を早急に——歴史情報『後進国』日本」(『学術月報』1998年10月)
- 「Encoded Archival Description (EAD)——記録史料目録情報の電子化、PROの試み」(国文学研究資料館史料館「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」研究レポート』No.2、1998年3月)
- 1999
- 『江戸時代の漁場争い——松江藩郡奉行所文書から』(臨川書店、1999年8月)
- “A challenge to archival development and archive science in Japan”, *ARCHIVUM* Vol. XLIV, International Council on Archives, 1999.1.
- 『本渡市古文書史料集・天領天草大庄屋木山家文書・御用触写帳 第四巻』(共編、熊本県本渡市教育委員会、1999年)
- 2000
- *What Students in Archival Science Learn: a bibliography for teachers* (主編著), International Council

on Archives, Section for Archival Education and Training, September 2000.

- 「松江藩郡奉行所文書の史料学的研究」(高木俊輔・渡辺浩一 共編『日本近世史料学研究—史料空間論への旅立ち』、北海道大学図書刊行会、2000年)
 - 「アジアのアーキビスト教育—最近の状況」(『レコード・マネジメント』No.40、2000年3月)
 - 『本渡市古文書史料集・天領天草大庄屋木山家文書・御用触写帳 第五巻』(共編、熊本県本渡市教育委員会、2000年)
 - 『平成9～平成11年度科学研究費補助金(基盤研究A)「在欧日本史料の所在と現状に関する調査」研究成果報告書(研究代表者・高木俊輔)』(分担執筆、国文学研究資料館史料館、2000年3月)
 - 「国文学研究資料館史料館—アーカイブズ研究センターをめざして」(『中央評論』2000年4月号)
 - 「記録を焼き捨てることと守ること」(『千葉県史しおり』、2000年4月)
 - 「アーカイブズ=『社会の記憶装置』の充実を—山口県文書館開館40周年に寄せて」(『読売新聞』西部本社版夕刊、2000年6月19日)
 - 「二十世紀アジアの『記憶』再生を—戦争期の記録破壊に責任：アーカイブズ国際会議で考えた日本の課題」(『朝日新聞』東京版夕刊、2000年10月6日)
- 2001
- 『記録史料記述の国際標準』(共訳)(アーカイブズ・インフォメーション研究会編訳、北海道大学図書刊行会、2001年)
 - 『平成11～12年度科学研究費補助金基盤研究(A)研究成果報告書「第二次世界大戦期アジアにおける文書記録史料の略奪・廃棄・流出等に関する調査」』(研究代表者・安藤正人)(編著、2001年)
 - 『陸奥国白河郡栃本村根本家文書目録』(国文学研究資料館史料館、2001年)
 - 『本渡市古文書史料集・天領天草大庄屋木山家文書・御用触写帳第六巻』(共編、熊本県本渡市教育委員会、2001年)
 - 『島根県立図書館所蔵松江藩郡奉行所文書調査目録・上巻』(編集・解説、島根県立図書館、2001年)
 - 「記録遺産をのこす—天草に文書館を」(天草文化協会『潮騒』第17号、2001年11月)
 - 「文書館の昨日・今日? 明日—世紀を越えて」(『山口県文書館紀要』第28号、2001年3月)
 - 講演録「抹殺された『記憶』を再生するアーカイブズの役割」(戦争被害調査会法を実現する市民会議「市民会議通信」第16、17号、2001年6月、9月)
- 2002
- 「日本軍政期英領マラヤにおける記録文書の状況」(『史料館研究紀要』第33号、2002年3月)
 - 『本渡市古文書史料集・天領天草大庄屋木山家文書・御用触写帳第七巻』(共編、熊本県本渡市教育委員会、2002年)
 - 『島根県立図書館所蔵松江藩郡奉行所文書調査目録・下巻』(編集・解説、島根県立図書館、2002年)
 - 『第1回アーカイブズ学博士フォーラム』参加記(国際資料研究所『DJIバイマンスリーレポート』第42号、2002年1月)
 - 講演録「歴史記録の共有の重要性」(『国際シンポジウムの記録』編集委員会編『記憶の共有を求めて Part I : 「過去の克服」と真相究明—日米韓で進む歴史事実調査』、樹花舎、2002年2月)
 - 「21世紀日本の歴史情報資源とアーカイブズ—大学共同利用機関の再編統合問題に寄せて」(『歴史学研究』No.761、2002年4月)
 - 「この人に聞く—公文書を保存して新たな地域創造に生かそう」(全国市長会『市政』第51巻第4号、2002年4月)
 - 「阿波根昌鴻さんのメッセージを未来に伝えるために—阿波根昌鴻資料第1回調査を終えて」(財団法人わびあいの里『花は土に咲く』第4号、2002年5月)
-

-
- 2003
- “Recovering memory, sharing memory: archives lost and displaced in the Asian-Pacific War and the responsibility of Japanese archivists”(in; Margaret Procter and Caroline Williams eds., *Essays in Honour of Michael Cook*, July 2003, University of Liverpool, Centre for Archive Studies)
 - 「アーカイブズ学の地平」(国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学 上巻』(柏書房, 2003年10月)
 - 「アーキビスト教育論」(国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学 上巻』(柏書房, 2003年10月)
 - 「日本のアーカイブズ論の形成」(全国歴史資料保存利用機関連絡協議会編『日本のアーカイブズ論』、岩田書院、2003年5月)
 - 「文書館の資料」(小川千代子他編著『アーカイブ事典』、大阪大学出版会、2003年)
 - 「アジア太平洋アーカイブズ・ネットワーク形成の課題——アーカイブズ学の立場から」(東京外国語大学大学院地域文化研究科21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」総括班「史資料ハブ地域文化研究」No.1、2003年3月)
 - 「情報社会の“記憶”を伝える——アーカイブ・サイエンスとアーキビストの役割」(『月刊IM』、2003年7月号)
 - 「司法資料の保存とアーカイブズ、アーキビスト」(日本弁護士連合会『自由と正義』、2003年4月号)
 - 「アーカイブズを考える——“戦争と記録”の問題から」(文化資源学会『文化資源学』第1号、2003年3月)
 - 「阿波根昌鴻資料第2回初期調査報告」(財団法人わびあいの里『花は土に咲く』第6号、2003年5月)
 - 「松江市三谷家文書第1回全体概要調査報告」(『史料館報』No.78、2003年3月)
 - 「土木アーカイブズの提唱」(『土木史フォーラム』、2003年9月号)
 - 『文化財科学の事典』(項目執筆、朝倉書店、2003年10月)
 - 『本渡市古文書史料集・天草大庄屋木山家文書 万覚 第1巻』(共編、本渡市教育委員会、2003年)
- 2004
- 「第二次世界大戦期における在外公館文書をめぐる日英の確執——イギリス側史料の紹介を中心に(前編)」(『史料館研究紀要』第35号、2004年3月)
 - 「学校教育とアーカイブズ」(『藤沢市教育史研究』第13号、2004年3月)
 - 「21世紀の地域創造と文書館(アーカイブズ)」(『高知新聞』2004年2月22日)
 - 「松江市三谷家文書第2回調査報告」(『史料館報』No.80、2004年3月)
 - 「記録を保存し記憶を伝える——阿波根昌鴻資料保存活動がめぐるすもの」(財団法人わびあいの里『花は土に咲く』第7号、2004年10月)
 - 『本渡市古文書史料集・天草大庄屋木山家文書 万覚 第2巻』(共編、本渡市教育委員会、2004年)
 - 「美術館・博物館、文書館の情報専門職制の開発と養成：現状と課題」(水嶋英治氏・中村節子氏・波多野宏之氏・水谷長志氏と共著、『アート・ドキュメンテーション研究』11号、2004年3月)
- 2005
- “From the destruction of records to recovery of memory”(東京外国語大学21世紀COEプログラム史資料ハブ地域文化研究拠点、*Creating An Archive Today*, 2005.1)
 - “The Asian-Pacific War and the Fate of Archives”, in: Margaret Procter, Michael Cook, Caroline Williams, eds., *Political Pressure and the Archival Record*, The Society of American Archivists, Chicago, 2005.
 - 「アーカイブズから考えるアジアの中の日本」(『アジ研ワールド・トレンド』第114号、2005年3月)
 - 「第二次世界大戦期における在外公館文書をめぐる日英の確執——イギリス側史料の紹介を中心に(後編)」(『国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇』第1号、2005年3月)
-

- 「歴史資料の共用化とアーカイブズ学の課題」(『国文学研究資料館アーカイブズ研究系「東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究プロジェクト」2004年度成果報告書』、人間文化研究機構国文学研究資料館、2005年3月)
- 講演録「阿波根昌鴻資料調査について」(『わびあいの里「第3回ゆずり合い、助け合い、学び合う会」記録誌』、沖縄県伊江村財団法人わびあいの里、2005年3月)
- 講演録「日本のアーカイブズ研究とアーキビスト教育——国際環境の中で」(『経済資料研究』No.35、2005年3月)
- 講演録「史料保存の今日的課題——新しいアーカイブズ学の世界へ」(『中央史学』第28号、2005年3月)
- 「アーカイブズとデモクラシー」(『教育アーカイブズふじさわ』創刊号、藤沢市教育文化センター教育史編集会議、2005年3月)
- 「アジアのアーカイブズ学研究とアーキビスト教育」(『アーカイブズ学研究』第2号、日本アーカイブズ学会、2005年4月)
- 「経営・番組制作の文書記録の保存を」(『放送ライブラリー NEWS』特別号、放送番組センター、2005年5月)
- 「アーカイブズ学における共同研究とその意義」(『総研大ジャーナル』7号、2005年5月)
- 講演録「アーカイブズ学とは何か」(総合研究大学院大学葉山高等研究センター研究プロジェクト「人間と科学」報告書『共同利用機関の歴史とアーカイブズ 2004』、2005年8月)
- 「星野家文書の調査と整理——1970年代」(『住まい新聞』vol.69、2005年9月、日本ステンレス工業株式会社)
- 「アーカイブズを考える——民主主義の土台として」(『教育情報バック』No.772～775、教育評論社、2005年10月1日～2005年11月15日)
- 「第二次世界大戦期アジアにおけるアーカイブズについて(東南アジア史学会第73回研究大会報告要旨)」(『東南アジア史学会会報』第83号、2005年10月)
- 講演録「戦争と文化遺産——記憶を未来へ伝えるために」(『市民会議通信』No.33、2005年11月20日、戦争被害調査会法を実現する市民会議)
- 『本渡市古文書史料集・天草大庄屋木山家文書 万覚 第3巻』(共編、本渡市教育委員会、2005年)
- 『平成14～16年度科学研究費補助金基盤研究(A)(1)研究成果報告書:旧日本植民地・占領地におけるアーカイブズ政策と記録伝存過程の研究』(研究代表者・安藤正人)(編著、2005年3月)
- 2006 • 「旧日本植民地・占領地におけるアーカイブズ政策と記録伝存過程の研究」(新年特集号「共同研究の成果とゆくえ」(『日本歴史』第692号、2006年1月)
- 「朝鮮総督府文書を中心とした旧植民地関係史料の共用化に関するアーカイブズ学的研究」(新年特集号「共同研究の成果とゆくえ」(『日本歴史』第692号、2006年1月)
- 『史料叢書9 近世の裁判記録』(編著、人間文化研究機構国文学研究資料館、名著出版、2006年)
- 「1940年上海土地記録引き渡し問題をめぐる日本と欧米諸国——イギリス側史料の紹介を中心に」(『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』第2号(通巻第37号)、2006年3月)
- 「編集にあたって」(日本アーカイブズ学会・記録管理学会共編『入門 アーカイブズの世界——記録と記憶を未来に』、日外アソシエーツ、2006年)
- 「記憶と記録を未来にどう残すのか」(パネルディスカッション 第2部 出版記念セミナー 記録管理の社会的責任〈特集〉2006年研究大会)(小谷允志、高埜利彦、高山正也、松岡資明と共著『レコード・マネジメント』52(0)、2006年)
- 講演録「資料調査について」(『わびあいの里「第4回ゆずり合い、助け合い、学び合う会」記録誌』、沖縄県伊江村財団法人わびあいの里、2006年3月)
- 『第2回アジア太平洋アーカイブズ学教育国際会議』の開催について」(『アーカイブズ学研究』4号、2006年3月)
- 2007 • 講演録「地域資料の活用拡大のための課題について——“草の根文書館”論再論」(大阪歴史科学協議会「歴

史科学』No.187、2007年2月)

- 講演録「市町村文書館の役割」(『寒川町史研究』第20号、2007年3月)
- 『平成15～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究A)「歴史情報資源活用システムと国際的アーカイブズネットワークの基盤構築に向けての研究」研究成果報告書(研究代表者・高埜利彦)』(分担執筆、学習院大学、2007年3月)
- 「国際会議関係報告：第2回アジア太平洋アーカイブズ学教育国際会議(2nd APCAE)『電子時代におけるアーカイブズ学研究とアーカイブズ学教育』」(『記録と史料』17号、2007年8月)
- *Treatment of records and archives in the Japanese colonies and occupied territories in Asia during the Second World War and its aftermath.* (ロンドン大学博士論文)

2008

- 講演録「記録を守り、記憶を伝える——市民のアーカイブズ(公文書館)をめざして」(『市誌研究ながの』15号、2008年2月)

- 「アジアにおけるアーカイブズとアーカイブズ学研究」(人間文化研究機構『論壇人間文化』第2号、2008年3月)
- 「“記録を守り 記憶を伝える”——学習院大学大学院人文科学研究科『アーカイブズ学専攻』の新設」(『専門図書館』229号、2008年5月)
- 「レコードキーピングとアーカイブズ——現代の記録管理を考える」(『情報の科学と技術』Vol. 58、No.11、2008年11月)

2009

- 『アジアのアーカイブズと日本——記録を守り記憶を伝える』(岩田書院、2009年10月)

- “Toward the common use of archival resources in Asia: proposals from the perspectives of archive studies”(今西淳子編『文学・メディア・アーカイブズからみたグローバル秩序——北東アジア社会を中心に』、風響社、2009年3月)
- 「第4回『記録とアーカイブズの歴史国際会議』(マイノリティ・レポート——アーカイブズに込められた先住民や少数者の声)に参加して」(『アーカイブズ学研究』10号、2009年3月)
- 「山口ゼミの大月史料調査」(『山口啓二著作集』第1巻「栞」所収、2009年4月)
- 書評「小谷允志『今、なぜ記録管理なのか=記録管理のパラダイムシフト——コンプライアンスと説明責任のために』」(『情報管理』Vol. 52、No. 3、2009年6月)
- 講演録「戦争・植民地支配とアーカイブズ——現代の課題との関わりから」(『人民の歴史学』第180号、2009年6月)
- 『平成17～20年度科学研究費補助金(基盤研究A)「朝鮮総督府文書を中心とした旧植民地関係史料の共用化に関するアーカイブズ学的研究」研究成果報告書』(研究代表者・安藤正人)(編著、2009年、電子版=日本学術振興会HP掲載)

2010

- 「アジア太平洋地域におけるアーカイブズ——資源共用化の基盤整備に寄与」(『科学新聞』第3274号、2010年1月8日)

- 「日本アーカイブズ学会の活動」(国立公文書館「アーカイブズ」41号、2010年9月)
- [参考]講演資料「アーカイブズ学の動向と科学情報資源の保存・活用方法のあり方」(総合研究大学院大学葉山高等研究センター「プロジェクト「人間と科学」研究課題「戦争と平和」報告書 平成17～21年度」、2010年3月)。
- 『『公文書管理法』新時代のアーカイブズと市民』(『住民行政の窓』vol. 350、2010年6月)
- 「日本のアーカイブズ50年——山口県文書館から公文書管理法まで(特集 近畿部会第101回記念例会 全史料協近畿部会の活動成果と今後の展望——近畿部会例会100回を振り返って)」(『記録と史料』第20号、2010年3月)

2011

- 「沖縄県伊江島の反戦平和とアーカイブズ——阿波根昌鴻資料調査会の活動」(『歴史評論』739号、特集「戦争

と平和のアーカイブズ」、2011年11月)

- 「阿波根昌鴻資料の役割」(財団法人わびあいの里「第8回ゆづり合い 助け合い 学合う会」、2011年12月)
- 2012 • 「島根県飯南町『旧赤来町役場文書』調査プロジェクトについて」(『GCAS Report 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻研究年報』Vol.1、2012年3月)
- 講演録「アーカイブズ学の立場からみたサス研環境アーカイブズの意義」(法政大学サステナビリティ研究教育機構「第23回サス研フォーラム講演記録集」、2012年3月)
- 2013 • 講演録「戦争と平和のアーカイブズ——ヒロシマ・ナガサキ・オキナワを中心に」(『日本歴史学協会年報』第28号、2013年3月)
- インタビュー・対談「いつでも、どこにも……、身近なアーカイブズ——記憶を伝え、記録を残すことの大切さ」(『別冊 Muse 2013』、帝国データバンク史料館、2013年9月)
- 『平成21～24年度科学研究費補助金(基盤研究A)「旧日本植民地・占領地関係資料ならびに原爆関係資料のアーカイブズ学的研究」研究成果報告書』(研究代表者・安藤正人)(編著、2013年、電子版=日本学術振興会HP掲載)
- 2014 • 研究報告「ABCC(原爆傷害調査委員会)文書を素材にした史料画像デジタル・アーカイビング・モデルの作成に関する研究」(入澤寿美、千葉功、青木祐一と共著、『学習院大学計算機センター年報』(35)、2014年7月)
- 2015 • 『歴史学が問う公文書の管理と情報公開——特定秘密保護法下の課題』(吉田裕氏・久保亨氏と共編著、大月書店、2015年5月)
- 2016 • 「石原一則さんを悼む」(『アーカイブズ学研究』No.25、2016年12月)
- 2017 • 『平成25～28年度科学研究費補助金基盤研究(A)研究報告書：国際コンソーシアムによる「原爆放射線被害デジタルアーカイブズ」の構築に関する研究』(研究代表者・安藤正人)(編著、2017年3月)
- 『平成25～28年度科学研究費補助金(基盤研究A)「国際コンソーシアムによる「原爆放射線被害デジタルアーカイブズ」の構築に関する研究」研究成果報告書』(研究代表者・安藤正人)(編著、2017年、電子版=日本学術振興会HP掲載)
- 講演録「日本の草の根アーカイブズ活動——沖縄県伊江島からの報告」(『wamだより』vol.37、わたちの戦争と平和資料館、2017年12月)
- 座談会記録「日本におけるアーカイブズ学の発展」(安澤秀一、大藤修両氏と共に、『アーカイブズ学研究』No.27、2017年12月)
- 「退職にあたって」(『GCAS Report 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻研究年報』Vol.6、2017年2月)
- [参考]講演録「安藤正人教授講演：現代社会におけるアーカイブズの役割」(桑尾光太郎氏執筆、『学習院アーカイブズ・ニュースレター』第9号、2017年2月)
- 2018 • インタビュー記録「歴史学とアーカイブズ学の課題」(『歴史学研究』No.967、2018年2月)